

授業改善等に関する報告書（2024 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2024（後期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Webテクノロジー演習	河井 延晃	本授業は「Webテクノロジー演習」の表記通り、演習授業でした。 大半が大学全体の他の科目の評価より高い評価となりましたが、授業改善のために低い項目に注目し、分析と改善案を提示します。 まず、他の授業平均と比較して、低いのは出席回数と成績評価の項目です。具体的には1「授業の欠席回数（2.0（全体科目平均は0.82））」、14「学生自身による自己成績評価」です。 確かに、欠席回数はやや目立ち、手元の出席データを見るともう少し多いです。これは、1限授業というだけでなく、インフルエンザなどの健康状態もあるとおもうので、仕方ないと考えます。 しかし、他の授業評価項目が高い値にあるのは、2の授業の予習復習時間が他の授業よりも高く、単に欠席をしていたのではなく、課題類はきちんと取り組まれていた事も伺えます。 最後の発表回が全員そろわなかったのは残念でしたが、避けがちな技術系の科目を皆さん真面目に履修されていたように思います。お疲れ様でした。
グローバル社会	倉持 一	この科目は、グローバル社会の「光と闇（メリットとデメリット）」を、日本だけでなく世界の現状から理解していくスケールの大きな授業である。その中で、履修者のみなさんがグローバル社会の課題を感じ取れたことは、この授業の狙いや目的は一定程度達成されたと考えている。
コミュニティ概論	須賀 由紀子	地域やコミュニティのことについて、関心を持っていただいた方が多く、よかったです。ぜひ、自分自身の身近な問題として、今後も考えていただけると嬉しいです。
ゼミナール	須賀 由紀子	3年ゼミでの基礎を、ファイナルプロジェクトに活かしていきましょう。
ゼミナール	河井 延晃	本授業は、3年生のゼミナール（対面、演習）に相当します。 年間を通じて、4、5月は文献輪読やデータベース検索、前期後半から後期にかけては企業連携によるPBL型の授業でした。 授業評価について、ほぼすべての項目で平均値を超えていますが、あえてこの中で低い項目を中心に、分析と改善案を示します。 他の科目の全体平均と比較して、低い項目は1の欠席回数（1.67（全体の平均は0.82））、14の「この授業での自己評価」の二項目です。ただし、前者は健康状態など仕方ない部分もあります。ここでは後者について分析と今後の改善や見通しを示します。 まず、大前提として授業スピードやわかりやすさ、双方向の工夫は高い評価でした。 特に、授業スピードは本年度はじっくり時間をかけてすすめたつもりです。これらの高さに対して14「この授業の（学生自身の）自己評価」は、そもそも大学の科目全体平均が4を切るため、なかなか高い数値は出にくい項目です。 特に、本ゼミはPBLで発表回などを通じて、各自の発表に対しそれぞれ良好な評価をいただいていると思います。一方で、「もっとこうしたらよくなる」「こうしたビジネスモデルや事例がある」などで、よい意味でも「もっとできた」という向学心が高まったのではないかと思います。その結果、本項目がやや謙虚な数値となった面もあるのではないのでしょうか。 ゼミは4年生のファイナルプロジェクトに続きますが、もしもさらに各自のテーマを深めたい場合は、引き継いでもかまいませんので、さらにゼミ生間の相互関係も深めながら頑張ってください。お疲れ様でした。
ゼミナール	倉持 一	今年度のゼミナールでは、従来よりもより幅広い領域を取り上げただけでなく、グループワークの機会を増すことで、協働力と企画力などのレベルアップを目指しました。その狙いは一定程度果たしていると受け止めます。次年度のファイナル・プロジェクトではこうした学びのレベルをさらに向上させると同時に、個人での卒論作成に飛び込んでいくことを目指します。
ゼミナール	行実 洋一	おおむね高い評価をもらえたが、Q14と16という自己充実感・達成感に関わる設問がやや低い面も見られた。次年度は受講者がこうした点でも高い評価を得られるような、授業運営を心がけたい。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	基礎準備の段階を終え、個別研究のステージへと進みますね。

【2024（後期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネスプランニング	上野 亮 倉持 一	アンケート結果では、授業の満足度、説明や資料の分かりやすさ等を含め、総合的に見れば、十分な評価を得られたと認識しております。 本授業は1年生の必修授業ということもあり、PBL形式の授業を体験し、社会で活躍する方々からフィードバックを受ける(学外の方に提案し、その評価を受ける)という点を重視した授業としました。最後に企業の方たちに向けて、企画提案を行うという緊張感を持って、課題に取り組んだこともあり、成長を実感できたかの評価は科目平均4.53とかなり高い値になっていました。 一方で自由記述欄にも回答がありましたが、グループワークに対して、非協力的な人がいたことは残念に思います。次年度以降は、フリーライダーが出ないように授業の進め方を改善する必要があると考えております(例えば、個人での活動成果も詳しく報告してもらう仕組みやグループワークでの貢献度も評価する仕組みを導入する等)。 今回の授業を通じて、学修してきた内容は、将来、社会に出てからも必要とされるスキルです。ここで学修してきた内容は、ぜひ、今後も活かしてもらえればと思います。
フィールドリサーチ c	上野 亮	アンケート結果を見る限り、授業満足度、説明や資料のわかりやすさに関しては、十分な評価を得たと認識しております。 本授業では地域コンテンツを作成するに当たり、グループワークとして、実際に現地調査や取材を実施してもらいました。今回作成したのは、比較的簡単に作成できるブログ記事でしたが、それでも、事前の下調べや取材先との交渉等を経て、内容に気を付けながら、広く公開されるコンテンツを作ることの大変さを実感してもらえたと思います。本授業で実践してきた、グループワークや計画立案、関係者との交渉といったことは、将来、社会に出てからも、様々な場面で求められます。今後も本授業で学修してきたことを活かしてもらえればと思います。
プロジェクト基礎演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	最終作品は、皆さんよいものができました。表現することの楽しさや面白さ、難しさを学修していただければ幸いです。
プロジェクト基礎演習 c	須賀 由紀子	他の人との協働作業や實際話を聞いて考えることなど、プロジェクト実践に生かしていただければ幸いです。
プロジェクト基礎演習 d	行実 洋一	今回は満遍なく非常に高い評価をもらえた。次年度も引き続き、授業内容をアップデートしつつ、より円滑で有意義な授業運営を行いたい。
プロジェクト実践演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	それぞれの方の作品は、力のこもった内容のものができました。本授業で会得した編集技法について、今後に生かしていただければ幸いです。
メディアアート論 a	犬塚 潤一郎	芸術に接することが、生活においてどのような位置づけにあるのか。受講された方々にもかなり大きな違いがあるようです。産業はデザインに満ちていますが、それとは区別される芸術の行為に出会うときの意味を、自分のものとするとしないとの違いを実感する機会となったのでしょうか。
メディアコミュニケーション b	河井 延晃	本授業、メディアコミュニケーションbは教科書に「ネットマーケティング検定」に準拠したテキストを使用した講義科目です。 まず、授業評価としては大学全体の授業評価より各項目が高い値となっています。そのなかでも、相対的に低い、あえて改善すべき項目に着目して、改善案を示します。 全項目のなかで、平均値より低い科目は14「成績の自己評価（3.25（大学全体平均は3.9））」となります。 おそらく、テキストにやや難しい部分があったのかもしれませんが。また、授業評価が成績判定前であることから不安もあったものと思います。 ・成績分布と比較して しかし、本授業の成績分布は、+Aが33%、Aが67%、それ以下、もしくは単位取得不可の履修者は0となっています。朝の授業で、きわめて意識の高い履修者であることが伺えます。 反省点としては、授業期間中（たとえば中間レポートなどで）にもっとエンカレッジ（具体的には褒める）機会などがあれば、14の項目も改善できると考えます。いずれにせよ、期末課題もふくめて真面目な履修生のイメージが強い授業でした。お疲れ様でした。
メディアプロデュース論	行実 洋一	全般的に満遍なく高い評価をもらえているので、次年度も引き続き、授業内容をアップデートしつつ、より円滑で有意義な授業運営を行いたい。

[2024（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
メディア経営論演習	犬塚 潤一郎	テキストの読解が、徐々に進んでいることが実感できたものと思います。大学卒業後は、このようなテキストにはまず接することはなくなってしまう、そういう人も多いのですが、ある程度親しんだこの経験を保ち続けていただきたいと思います。
家庭経営 c（育児・介護）	笠原 良太 蟹江 教子	おおむね肯定的評価でよかった。次年度以降、もう少しワークを増やすなど、実践的な学びにしたい。
環境マーケティング論演習 a	犬塚 潤一郎	ディスカッションを重ねてきました。現代社会の複雑さを解きほぐす、知的な技術の習得が、一段階進んだものと思います。
環境マーケティング論演習 b	倉持 一	この授業は演習科目であり、基本的にはグループワークを通じて理論学習やアイデアの具体化まで進める授業である。その狙いなどは達成されたものと考える。グループワークは、他者との協働という明るい側面を持ちつつも、回答にあったようにデメリットの面もある。ただ、社会は多様であるがゆえに自他の葛藤の場でもある。今回の経験を前向きに捉えてほしい。
環境マネジメント論	浪崎 直子	本授業では、オンデマンド授業でありながらも、manabaのスレッド機能を活用して受講生同士の意見交換を促進したり、プロジェクト機能を活用してオンライングループディスカッションに挑戦したりするなど、できるだけ双方向になるよう工夫しました。授業アンケートでは、ほぼすべての項目において全体平均を上回る結果となり、本授業の目的を十分に達成できたと考えています。 特に、受講生から「授業で自分や他人の意見を取り上げてくれたことで、先生からのコメントがもらえて良かったし、他人の意見も聞いてより考えを深めることができ、とても面白い授業でした」とコメントいただいたことは励みになりました。今後も、ご自身の興味を掘り下げて、他者と協働しながら環境の活動を実践していただければと願っています。
環境思想演習	犬塚 潤一郎	思想系のテキストは、思索能力を向上させるためのものですが、それだけに、予習なしで授業参加すると、テキストの内容の理解がなかなか進みません。テキストとの付き合い方の経験を、今後活かしてください。
企業研究 a	倉持 一	企業研究という科目は、その科目名の一般性とは異なり、現代生活学科らしいユニークなものです。今後のキャリア開発において企業を研究するということは不可欠であり、その中でも「企業の強さと優しさ」という知名度などとは異なる視点を持つことがこの授業の狙いでした。評価を見るとこの点は十分に理解してもらっていると解釈します。
基礎メディア技術	河井 延晃	本授業は1年時配当の「基礎メディア技術」の授業となります。教科書とあわせてハンズオンの作業などを行いながら進めてゆきました。以下、改善案を示します。 PC操作や技術に苦手意識のある人も、本授業は毎回出席することで取り残すことのない授業と位置付けて開講しています。 やや評価はばらつき（幅）があり、6「授業スピード」の適切さがやや低い項目です。また、欠席回数も全体平均と比較するとやや多めとなっています。どうしても連続性のある授業のため、欠席が続くと課題提出が難しい回もあったのではないかと思います。一方で、授業そのものももう少し量を減らして、無理ない「基礎メディア技術」の理解を深める事も必要ではないかと考えさせられました。また、授業期間中に独自に進捗や理解を確認しながら（たとえばレスポなどで）進めてゆくことも一つの解決策と考えます。 一方で、物足りない方は「応用メディア技術」も履修してみてください。
現代社会を読み解く c（文化と市場）	河井 延晃	本授業は、講義科目の「現代社会を読み解くc（文化と市場）」でした。特に、プラットフォーム型のメディアやビジネスを中心として扱う観点から、テキストを指定しました。 以下では、特に評価の低い項目に着目して、改善案を示しますが、その前に、授業開始時はテキストの入手性が悪かったようで、この点ご不便をおかけしました。 各評価の中で、特に低い項目は8「双方向授業」、9「板書やパワーポイント」についてでした。上記の教科書の入手性の悪さも関係していると考えますが、本年度に初採用したテキストは、次年度は別のテキストを選定し、改定予定です。 成績分布は、+Aが35%、Aが47%、Cが12%となっており、やや高めの正規分布（山型）となっており、成績には悪影響を与えていませんが、教科書の入手性の悪さについてはご不便をおかけしました。教科書の変更により次年度は大きく改善の予定です。

[2024（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代社会を読み解く d（科学技術と社会）	犬塚 潤一郎	科学技術の進歩が社会と生活を大きく変える、その近代の特徴が、近年は一層顕著になっています。エネルギー、生命工学、AIを中心に、現代技術の特徴と社会・産業への影響、そして新たな倫理の課題を生んでいることをとりあげました。それぞれインパクトのある問題だったと思います。
現代生活学	犬塚 潤一郎	現代の生活を構成する、技術・制度・産業・政治・国際関係・文化等々、様々な局面において現象を再考しようとする意識が、社会の根本課題に近づく知的手段となるものです。各回の論述課題が、ご自身のその力の育成に役立てられたようです。
広告とメディア	行実 洋一	全般的に満遍なく高い評価をもらえたが、受講者の自己評価がもう一つという側面も見られた。その点を配慮して、より自己達成感が高まるような授業運営を行いたい。
社会責任論	倉持 一	この科目は、理論学習と実際の経営との整合性や課題を理解することで、現代企業の抱える悩みを理解し、また、その解決に向けたヒントを自ら見つけ出すことを主眼とするため、意図的に難易度を上げている。その状況下でも理解度などが高かった点は、履修者の努力によるものであり、この科目のねらいであった。
女性社会論 b	倉持 一 須賀 由紀子	この科目は専門性の異なる二人の教員による構成を採用しているが、授業の狙いや目的は一定程度達成していると受け止めている。履修者の成績も良好な状態であり、この内容を次年度も展開していきたい。
生活産業史	倉持 一	この授業で取り上げた3つの生活産業は、いずれも皆さんの日常と直結したものです。その生活産業の抱える課題を理解することは、今後の皆さんの生き方をも変化させるものと期待していますし、評価からもその点は伝わったものと解釈しています。
地域文化形成論	須賀 由紀子	その地域ならではの暮らし、文化を活かした活性化の視点などについて考えるきっかけになっていれば嬉しいです。ご自分の身近な地域のことについて、考えてみていただければ幸いです。
統計とモデリング	上野 亮	授業では基本統計量や相関、回帰分析といった、統計の中では基本的な内容を中心に扱いましたが、そもそも統計というテーマが難しいこともあり、統計学の考え方やPC操作に慣れていない学生にとっては内容が難しかったのか、理解度や満足度は少し低めになってしまいました。ただ、記述回答では複数名から「EXCELやRに対する理解が深まった」といった趣旨の回答もあり、授業目標は概ね達成できたかと思います。 今回の授業で扱った内容は調査報告書や論文等の文献を読み解く際、自身がデータに基づき報告書や論文を書く際、必要になる内容です。ぜひ、今後も授業で学修したことを活かしてほしいと思います。